2012 年 1 月 30 日

開講機関　狭山商工会議所・狭山市

狭山商工会議所
指導課　栗原博文

1．教育活動の趣旨

狭山市は東京の北西部・首都圏 40km圏内（西武新宿線）にあり高度経済成長期に東京のベッドタウンとして、また、2 つの工業団地の造成があり、ものづくり地域としての色合いが強い。

地域経済団体の狭山商工会議所は、地域の事業者を会員とし、平成１年６月に商工会から組織変更した地域経済団体である。

商工会議所としての通常業務は、地域事業所への指導・支援や、行政施策の普及、産業・地域の活性化等多岐にわたるが、8年ほど前から小・中学生に対する経済体験教育（ビズ・キッズ）や、地元工業高校と連携を組み、生徒のインターンシップ等キャリア教育も手がけている。

2010 年 4 月、西武新宿線狭山市駅西口再開発により誕生した「狭山市産業労働センター」の指定管理を狭山市から委託され、産業支援等の活動を中心に事業展開し、「知の市場」も同センターが担当し、開催場所としている。

会議所、産労センターとしての様々な活動を踏まえ、さらに、「知の市場」の活動を盛り込むことは、地域企業の活動内容や社会貢献活動の地域への浸透度合い、市民の認識度合いを更に高めることにより長期的に人材育成や産業活性化によい影響を与える要素となることを確信し、2011 年度から「知の市場」に参加し、社会人向けの公開講座を実施し、2012 年度は 3 つの講座を増設し活動を実施する。

2．2011 年度開講実績

①YB611a　狭山を学ぶ　企業編Ⅰ　　（実施期間　2011.10.19～2012. 2.22）

当講座への応募は定員 40 名のところ 20 名にとどまった。開校式には狭山市長仲川様においでいただき、その後、「知の市場」会長、お茶の水女子大学の増田教授の講義があり、全 15 回がスタートし、各分野におけるトップ企業の講義を受けることができた。各企業とも、その黎明期の時代背景や経済状況などにより大変なご苦労をされ、試行錯誤を重ね、技術開発等により企業が成長してきた歴史や、現状の市場を踏まえた、事業への力点の所在や、経営における考え方等を披歴していただき、企業の活動と、技術を通じて広く世界を垣間見る機会となった。

受講者は、各企業の歴史や活動などに深い興味を抱き、真剣に聴講していた。各回とも小レポートがあり、それも高割合で提出している。（現在講座途中で 2 月 22 日に完了の予定）

②YB614 さやまを学ぶ キャリア教育編 （実施期間 2011.9. 10～11.12）

狭山市内の 9 つの中学校に公募を実施し、中学生からの応募は 23 名、結果 21 名が継続出席し、受講者の延べ出席数は 122 名、関係者・支援者等の延べ出席は 50 名であった。

受講者は、事前授業を受け、企業からビジネスプランの作成、事業ノウハウを習得し、更にチームごとの工夫を重ね、販売における利益確保を行い、事後の授業を通じてのお金の使い方等を学ぶことができた。また、支援者である企業経営者や大学教授等の講演を通じ、社会への視野を広めるきっかけとなった。特に、本年は東日本大震災で被災した岩手県の山田町観光協会事務局の椎屋様に当時の状況等をお話しいただけたことは参加者にとって大きな経験となったと考えている。企業として販売を武蔵野学院大学学園祭で実施し、得た収益金の一部を被災地に送ることもできた。

販売実績（4 チーム） 販売額：約 15 万円 利益額：約 33 千円 配当額：約 3 千円

岩手県山田町 「鯨と海の科学館」への震災支援寄付 1 万円

3．2012 年度開講内容

2011 年度は 2 つの講座を計画し、春開催予定の「狭山を学ぶ 企業編Ⅰ」は 3 月 11 日に起こった東日本大震災の影響で秋にずれ込み、日程を再調整して実施した。

2012 年度はさらに 3 つの講座を増設し、春季開始講座が 3 講座、秋季開始講座が 2 講座の予定である。

①狭山を学ぶ 企業編 b YB611b

＜科目概要＞

狭山市は、人口約 16 万人を擁し、豊かな緑の中に 2 つの工業団地を抱える首都圏を彩る中核都市である。1982 年以降、狭山市の製造品出荷額は県内第 1 位を維持し、約 1 兆 4 千億円の出荷額（2008 年度）を誇るものづくりの都市である。こうした狭山の地が育んできたにもかかわらず日頃触れる機会の少ないものづくりの精神と技術や経営について、狭山市の特性を活かしながら内外に大きく羽ばたく企業の歴史、概要、技術などを広く紹介する。

その中で、今回は昭和 40 年代に埼玉県企業局により造成された狭山工業団地とその周辺企業の活動を紹介します。

②狭山を学ぶ ものづくり編 a YB612a

＜科目概要＞

ビリヤードの主要アイテムであるキュースティックとは何なのか。なぜ、世界中の選手が特定のブランドを選ぶのか、世界中の選手に選ばれる ADAM ブランドの特徴を紹介。キャロムビリヤード及びポケットビリヤードについてプロ選手の指導のもとで、知識だけではなく実演実習を体験することで、ビリヤードを基礎から学ぶとともに生涯スポーツとしてのビリヤードを紹介することによって、その理由を解き明かす。

③国際石油論　YB531

＜科目概要＞

石油は生活・経済・社会の根幹をなし、国際経済と国際政治に大きな影響をもたらす。生活の安全保障を考える上で、戦略物質を巡る産油国や消費国の働きを理解することは重要である。サウジアラビアは、世界最大の石油資源保有国として、石油資源の最後の一滴まで有効に利用したいと考えている。穏健な価格政策で石油市場の維持拡大を目指し、また、石油産業の垂直統合を通じて、石油市場の安定性を確保しようとしている。こうした石油政策は、無資源国である日本として尊重すべきものであり、日本は、サウジとの貿易・投資関係の拡充を通じて、互恵的な関係に立ち得る。今日サウジアラビアは人口爆発、若年層比率の急増を背景に、雇用機会の創出、教育訓練プログラムの拡充、女性の社会進出の確保という喫緊のニーズを抱える。両国の将来関係の基礎に戦略的互恵関係の強化を位置づけ、多様な分野で重層的な関係を構築することが重要である。

④狭山を学ぶ　企業編ｃ　YB611c

＜科目概要＞

上記①の、狭山を学ぶ　企業編ｂ　YB611bと同様の内容の講座で、こちらは、昭和30年代後半に造成された、狭山市にあるもう 1 つの工業団地である川越・狭山工業団地とその周辺企業の活動を紹介します。

当該工業団地は、世界的企業である本田技研工業をはじめ有数の企業があり、その活動内容をご紹介します。シラバスについては、現在鋭意作成中です。

⑤狭山を学ぶ　キャリア教育編Ⅰ　YB614

＜科目概要＞

狭山商工会議所では2003年度以降市内小学校２校に経済キャリア教育を導入し、2007年度から中学生向けの経済キャリア教育を公募で実践してきた。 経済をテーマとしたキャリア教育を実践するに当たり民間の企業からプログラムの提供を受け、狭山市内の中学生で、「経済」や「産業」に興味を持つ生徒が公募に自ら応じて参加する。

商工会議所が実践している経済体験を中心とするキャリア教育の中核であるビズ・キッズの手法を用い、市内の中学生を対象に経済体験事業として実施します。

本事業は、「現金・現物・現場」（3 現主義）＝経済活動を体験するのに、日本銀行券と、実際の商品・製品を使い、校外の実社会で、一般の消費者を相手に商売を実施するもので、自ら起業し、自ら考え、行動し、責任をとる。という自己責任を重視したプログラムで、自己の成長にとって貴重な体験となります。

4. その他、抱負や課題など

2011 年度、狭山市として初めて本事業を実施し、「五里霧中」狭山商工会議所のネットワークとコーディネート力を活かした講座を計画し、会議所としては今まで関連の薄かった「市民」を対象としたネットワーク構築にチャレンジした。

「知の市場」の PR も含め、スタート年度としては、震災等のアクシデントもあり苦しい環境であったが、上記報告のように何とか事業実施をできたと考えている。

2 年目となる 2012 年度は、「知の市場」というアカデミックな活動を継続することにより、地域企業の活動に対する市民の理解を深めると共に、市民の「実学を学びたい」という学びの欲求を充足出来る講座に仕上げるとともに、地元ケーブル TV との連携により、広く市民に本事業を PR し、「知の市場」が狭山市にしっかりとした根をはるための活動を実践していきたいと考えます。

事業名称：知の市場　狭山を学ぶ　キャリア教育編
実施期間：H23.9.10～11.12　　回数・時間等　7日・延べ23時間
参加者：応募者数　23名　　述べ出席者数122名＋50名
講師氏名：市内企業経営者・大学教授・会議所職員　等

事業目的（当初市役所に提出したもの）

狭山商工会議所・狭山市役所商工業振興課との共催、狭山市教育委員会の後援により行う全15回（7日間で実施）の講座で、経済や産業に興味を持つ中学生が対象。定員は20名とする。大学教授、商工会議所職員、税理士、地元企業経営者等の専門家を配置する。

実施結果（担当者の意見等）

事前授業と、販売における利益確保を行い、事後の授業を通じてのお金の使い方等を学ぶことができた。また、企業経営者や大学教授等の後援を通じ、社会への視野を広めるきっかけとなった。特に、本年は東日本大震災で被災した岩手県の山田町観光協会事務局の椎屋様に当時の状況等をお話しいただけたことは参加者にとって大きな経験となったと考えている。企業として販売を武蔵野学院大学学園祭で実施し、得た収益金の一部を被災地に送ることもできた。

特記

中学生という年齢・立場で生きた経済を経験し、自ら行動して経済活動を実践でき、多くの大人とコミュニケーションをとることができた経験は何物にも代えがたいと考えている

担当者：栗原博文

事業名称：知の市場　狭山を学ぶ　企業編Ⅰ
実施期間：H23.10.19～2.22　　回数・時間等　15回(毎週水曜日）
参加者：応募者数　20名　　述べ出席者数　名＋　名
講師氏名：市内企業11社・大学教授　等

事業目的（当初市役所に提出したもの）

狭山商工会議所・狭山市役所商工業振興課との共催、狭山市教育委員会の後援で、地方公共団体としては初めて「知の市場」に参加する。実施は全15回で定員は40名、定員に達した場合でも60名までは応募に応じる。内容的には、地域の経済や産業、企業活動等を広く市民に伝えるもので、講師として参加いただく企業の歴史や技術、経営などをお話しいただく。

実施結果（担当者の意見等）

事業への応募は定員40名のところ20名にとどまった。開校式には狭山市長仲川様においでいただき、その後、「知の市場」会長、お茶の水女子大学の増田教授の講義があり、全15回がスタート。市内の各分野におけるトップ企業の講義を受ける。受講者は、各企業の歴史や活動などに深い興味を抱き、真剣に聴講していた。各回とも小レポートがあり、それも高割合で提出している。

特記

自治体初の「知の市場」ということで、参加者も多くはなく、さらなるPRと意識向上が必要と考えられる。しかしながら、今後継続しながら、内容をブラッシュアップし、コースも増設するなどして狭山への定着を図りたい。

担当者：栗原博文